

2 - 2 重点事業評価

事業名
電子図書館サービスの充実

(1) 事業の概要

- 対象
図書館に直接来館する利用者だけではなく、遠隔地で来館が困難な利用者。
- 意図・目的
当館独自のデータベースの更なる拡充や音楽配信サービスの提供により、多様で高度な利用者ニーズに応えるとともに、県立図書館のサービスを、いつでも、どこでも利用できるような電子図書館の環境整備に努める。
- 具体的取組の概要
 - ①音楽配信サービス「ナクソス」の普及を図ることで、文字・画像情報だけではなく、総合的な文化の発信拠点を目指す。
 - ②「越後佐渡デジタルライブラリー」による新潟県関係歴史資料のデジタル化とその公開を推進するとともに、「郷土人物／雑誌記事索引データベース」などの独自データベースの更なる充実を図る。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
越後佐渡デジタルライブラリーへの総登録件数	3,300件	3,675件 (達成率 111%)

(3) 事業評価（自己評価）

（平成23年度末現在：約3,000件）

自己評価	A	期待どおりの成果をあげることができた。
------	---	---------------------

- A 目標が十分に達成された。 B 目標がある程度達成された。
 C 目標の達成が不十分である。 D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	新潟県関係歴史資料のデジタル化とインターネットによる公開は、遠隔地在住の県民や、研究者のニーズに応えるものであり、図書館の使命である資料保存と提供という観点からも、指標設定の必要性は妥当と考えられる。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	新たに三条市が加わり、越後佐渡デジタルライブラリーには、計10市町が参加している。市町村支援という観点から、また提供資料の充実という観点から、有効性がみられ、目標数値を上回る成果で、実績の向上を図ることができた。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	前年度の経験を経て、デジタル化仕様書の充実に取り組み、実施期間を集中し、計画的にデジタル化を実施した。このことから進捗管理は妥当と考えられる。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など
今後も当館及び県内市町村図書館等の貴重資料のデジタル化を進め、音楽配信サービスの普及を図ることにより、電子図書館の環境整備に努めたい。電子書籍については、図書館での展開に問題があるため導入できないが、今後の動向を見守りたい。なお、新たに郷土新聞のデジタル化についても取り組みたい。

(5) 図書館協議会意見

本年度の目標とした「越後佐渡デジタルライブラリー」のコンテンツ充実に向けた取り組みについては、着実に成果を上げたことについて評価するとともに、今後も県内の自治体と協力した取り組みを期待する。一方で「次のステップである「活用」について考える必要がある」という意見も出された。

音楽配信サービス「ナクソス」については、県民に対する周知度をより高めていく必要性が指摘された。

次年度からの「郷土新聞のデジタル化」については、

- ・具体的な調査研究に資するほか、地域の歴史を未来に残す上で意義がある
- ・戦前の郷土新聞を対象に、県立図書館所蔵分から始めるというこの取り組みが、中越、上越へと市町村立図書館の所蔵にまで順次広がることを期待する

など、その取り組みに対する高い関心や期待感が複数の委員から示された。

電子図書館サービス全般については、

- ・遠隔地在住の県民等のニーズに応える必要性からも、社会状況を踏まえつつ更なる環境整備を期待する
- ・ぜひ積極的に進めてほしい

という意見とともに、予算拡充に対する要望や、広報活動が少ない、子どもへの（子ども向けの）情報が少ない、との指摘もあった。また、国立国会図書館によるサービス（近代デジタルライブラリー、歴史的音源、震災アーカイブ等）を県民に紹介するなど、国立国会図書館との連携を模索してはどうかという提言も出された。

電子書籍については、「（電子書籍は）県立図書館にそぐわない気がする」との意見があった。